

# 学生の海外研修等における危機管理の全体像(スキーム概要)

## phase1: 渡航前のリスクマネジメント(予防)

- 海外リスク情報の収集と共有【国際部 Web】
- 海外渡航の実施・延期・中止・継続等の判断基準(ガイドライン)の設定と共有【国際部 Web】
- 渡航前オリエンテーションの実施【各部門】
- 学生向け海外危機管理セミナーの実施【国際部】
- 職員向け海外危機管理セミナーの実施【国際部】
- 保険会社、旅行会社、アシスタンス会社等との提携【国際部・各部門】<別図参照>
- 緊急連絡網の作成と共有【国際部・各部門】
- 危機管理マニュアルの作成と共有【国際部・各部門】
- 危機対応のシミュレーション、トレーニング【国際部】

## phase2: 危機発生時のクライシスマネジメント(対策)

- 教員が複数の学生と海外の様々な現場で研修プログラムを実施中に発生した場合の危機対応の種別【カテゴリ】
- <深刻度に応じて危機対応の仕方、体制を変える>
- A: 担当教員が現場で対応し、事後報告で済むもの  
→学生の生命に別条のない軽傷や軽度の疾病。携行品の盗難等
- B: 現場一部門一保険会社(旅行会社)で対応するもの  
→学生が入院した場合や緊急搬送が必要な場合等
- C: 上記Bに加え、国際部とアシスタンス会社等で対応するもの  
→現地で大規模な災害に遭遇した場合など
- D: 上記Cに加え、在外公館も交えて対応するもの  
→現地で犯罪組織やテロ組織などに誘拐、監禁された場合など

## phase3: クライシス・ダメージの極小化

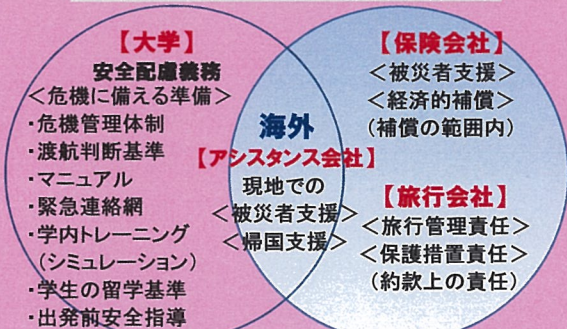
- 事実の確認<事故発生状況:日時・場所>
- 関係当事者への連絡、事故対策本部の設置
- 事故情報の収集と精度の確認
- 事故原因の究明と事故の当事者の概要
- 被災学生の障害内容と収容先病院等の詳細
- 被災学生の治療・入院計画に関する情報収集
- 被災しなかった、又は軽傷の学生の安全確保
- 事故対策本部における対応方針の決定、指示
- 家族への対応、説明、渡航のサポート
- メディアへの対応(ブランドリスクの回避)
- 再発防止策の策定と収束安全宣言

- 正確な情報
- 迅速な行動
- 組織的な活動
- 明確な説明
- 情報の公表

### 想定されるリスク(ここでいう危機)

- I. 自然災害(地震、台風、水害等)
- II. 環境被害(大気汚染、水質汚染等)
- III. 犯罪被害(テロ、デモ、暴動、強盗・窃盗、詐欺、暴力行為、麻薬、ストーカー、銃犯罪等)
- IV. 車両事故・火災事故(加害・被害)
- V. 健康・衛生(疾病疾患、新型感染症、風土病、難病、メンタルヘルス)
- VI. その他(ハラスメント、人種差別、生活習慣や宗教等の問題から生じる異文化不適合)

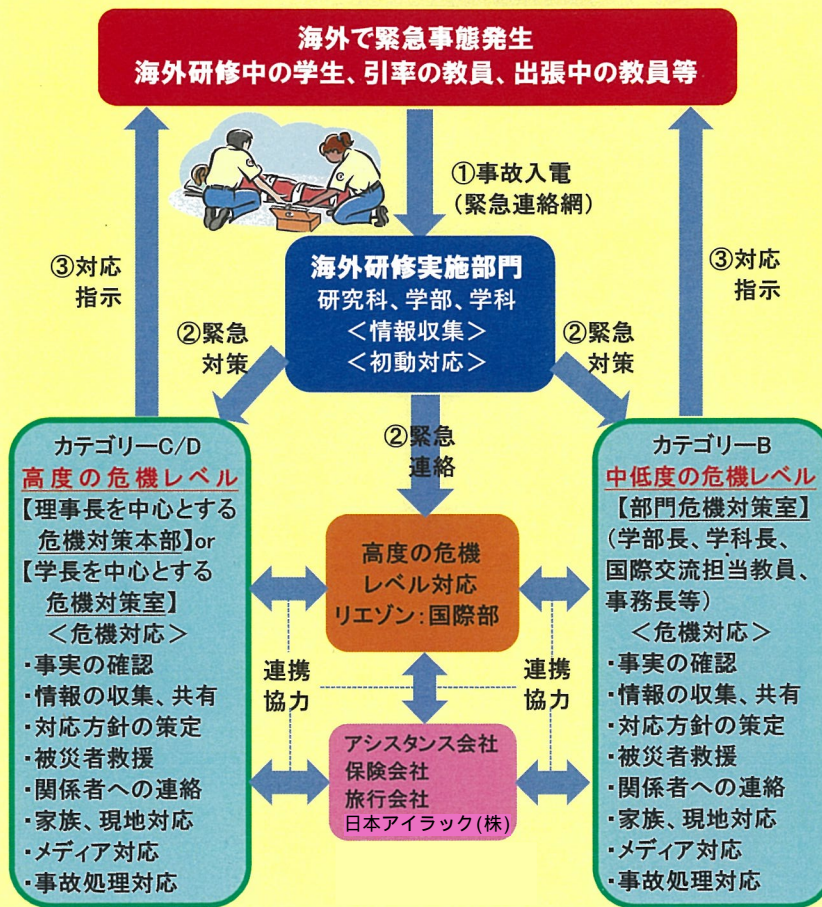
### リスク管理体制(大学等の対応範囲)



### 大学の安全配慮義務

1. 安全な海外研修の企画、安全な提供機関の選定
2. 適切な現地調査と安全に関する説明
3. 学生の安全確保のための適切な対応措置
4. 緊急時の対応:危機の回避、被害軽減、安否確認、被災者救援、家族対応(連絡、説明、渡航サポート)、メディア対応、行政監督庁対応

### 海外派遣留学に関する危機管理体制の一例



### 事故対応のプロセス例

時間的経過				
主体・対象	アクション			
被災者	被災・被害	避難・待機	応急処置 入院加療	帰国
派遣先(海外)	状況確認 日本報告	情報収集 報告連絡	事故処理 対応支援	
在外公館(海外)	状況確認 報告相談	救出・救済 支援	現地政府との折衝	
大学	報告受付 事実確認 情報収集	対策本部の設置。 被災者の安全確保、 救援対応。	家族対応、 家族向け説明会、 渡航支援。	行政への報告。 マスコミ対応。
アシスタンス会社	24h緊急 事故受付	事故処理 対応支援	事故対策 本部支援	現地渡航 サポート
旅行会社	安否確認	被災者保護・救済	全員の安全措置	現地渡航 サポート
保険会社	報告受付	治療手配	入院手配	渡航支援
家族	事故連絡	渡航可否の判断	家族説明会参加	現地出発
マスコミ	—事故報道— 事故の話題性によって介入のタイミングが変わる			
時間的目安	<48時間>		<72時間>	